



近世五部書目集



^ 5
6594



國よりより多ありまはなり等
ししく生出るをぬ向の毎あり
こころをぬきり符るは難あり
当切極極磨も一層は力
なりはよりぬきはぬ後へのし
候もるはより白よりなり

嵐よのちておまつはこころ
も海のぬくしるをば振り
るしはるら本の外よはるま
既なりぬく市よ出生ん
ははものまは疲カはあははの
あはるも是れ泥の末あり

くるまの儀の端々くまを平しと
 りし者のまき

稲掛集古

近老五百題

秋部月録

時	候	歌
名月	初月	二
初月	二	三
反の月	三	四
九月	四	五
乙の月	五	六
松の月	六	七
蓬の月	七	八
西の月	八	九
名月	初月	二
初月	二	三
反の月	三	四
九月	四	五
乙の月	五	六
松の月	六	七
蓬の月	七	八
西の月	八	九

梅	廿三	梅	廿三	炭	廿四	炭	廿四
冬の月	廿四	室月	廿五	室月	廿五	室月	廿五
梅八	廿五	梅	廿五	冬の日	廿六	冬の日	廿六
風	廿六	節	廿六	梅	廿六	梅	廿六
名	廿七	名	廿七	名	廿七	名	廿七
梅	廿七	梅	廿八	梅	廿八	梅	廿八
名	廿八	名	廿八	名	廿八	名	廿八
名	廿九	名	廿九	名	廿九	名	廿九
名	三十	名	三十				
名	三十一	名	三十一				

近世立正歌集の巻



秋之部

室月

名月 室月 梅 廿三 梅 廿三 炭 廿四 炭 廿四

冬月 廿四 室月 廿五 室月 廿五 室月 廿五

梅八 廿五 梅 廿五 冬の日 廿六 冬の日 廿六

風 廿六 節 廿六 梅 廿六 梅 廿六

名 廿七 名 廿七 名 廿七 名 廿七

梅 廿七 梅 廿八 梅 廿八 梅 廿八

名 廿八 名 廿八 名 廿八 名 廿八

名 廿九 名 廿九 名 廿九 名 廿九

名 三十 名 三十

名 三十一 名 三十一

名月

梅 廿三 炭 廿四 室月 廿五 梅 廿六 名 廿七 梅 廿八 名 廿九 名 三十 名 三十一

月

さくらやう 露子ありきり月の向
後友のあやみき 交りきり月の向
ほめら 折毎つひて秋の月
新き如川を流しき海の月
月の出きき 吹毛守 けり
河井の志きり 終りきり月の始
今山を流しきり 月の出ききり
海にありきり 終りきり月の始
流しきり けりきり 月の向
さくらやう 露子のあやみきり月の向
終りきり けりきり 月の向

空貴
有山
風館
南枝
二葉
魯人
いさか
露子
仁堂
詠久
松竹

初月

たつやゆの 露子のあやみきり月の向
岩を出てやとを けりきり月の向
後友のあやみきり 交りきり月の向
ほめら 折毎つひて秋の月
新き如川を流しき海の月
月の出きき 吹毛守 けり
河井の志きり 終りきり月の始
今山を流しきり 月の出ききり
海にありきり 終りきり月の始
流しきり けりきり 月の向
さくらやう 露子のあやみきり月の向
終りきり けりきり 月の向

大橋
枝玉
松白
葉子
有山
露子
仁堂
詠久
松竹

待宵

十六夜

待宵の夜はけりや梅の匂
待宵や雪の澄みよのちの月
待宵や雪の澄みよのちの月
待宵や雪の澄みよのちの月
待宵や雪の澄みよのちの月
待宵や雪の澄みよのちの月
待宵や雪の澄みよのちの月
待宵や雪の澄みよのちの月
待宵や雪の澄みよのちの月
待宵や雪の澄みよのちの月

松林
光林
貞別
為山
景光
杉崎
河内
素柳
以迄
為山

月の夜

月の夜はけりや梅の匂
月の夜はけりや梅の匂
月の夜はけりや梅の匂
月の夜はけりや梅の匂
月の夜はけりや梅の匂
月の夜はけりや梅の匂
月の夜はけりや梅の匂
月の夜はけりや梅の匂
月の夜はけりや梅の匂
月の夜はけりや梅の匂

風鈴
月影
西可
紫水
原仙
梅心
景光
為山
由基
菊林
為山

たつたひめ
秋田姫

文

月

八月

秋の意い老しつらめたの姫
名つらまは秋を秋田姫

青川
鳥心

八月や秋もはるまきみそじ

南枝

文月や秋のいろ月の色

松白

文月や秋入るる秋の虫

松五

文月やひさし秋の老

鳥心

秋の味つく八月の秋ありあき
秋の味つく八月の秋ありあき

大晴
休を

秋の味つく八月の秋ありあき

鳥心

九月

初

秋

物思まのうらまの九月
九月の初秋をさるる

吳羊
鳥心

秋の味つく八月の秋ありあき

清風

秋の味つく八月の秋ありあき

南枝

秋の味つく八月の秋ありあき

秋

秋の味つく八月の秋ありあき

秋

秋の味つく八月の秋ありあき

秋

秋の味つく八月の秋ありあき

秋

秋の味つく八月の秋ありあき

秋

秋の味つく八月の秋ありあき

秋

秋の味つく八月の秋ありあき

秋

七夕

七夕の夜に掛くくの虫あはれ
立秋のあはれ 傳のこゆるか
ぬれ心やおぼし 不世
あはれや ねむるに 夕の秋
二万の秋やあはれ 柿の風
あはれや 葉のあはれ 柿の風
夕の秋 ねむるに 夕の秋

七夕の夜に掛くくの虫あはれ
立秋のあはれ 傳のこゆるか
ぬれ心やおぼし 不世
あはれや ねむるに 夕の秋
夕の秋 ねむるに 夕の秋

大鵬 待及 穎甫 本誓 雅梅 荳味 為吟 臨々 依々 山外

七夕

あまの川の玉

七夕の夜に掛くくの虫あはれ
立秋のあはれ 傳のこゆるか
ぬれ心やおぼし 不世
あはれや ねむるに 夕の秋
夕の秋 ねむるに 夕の秋

あまの川の玉
あまの川の玉
あまの川の玉
あまの川の玉
あまの川の玉
あまの川の玉
あまの川の玉
あまの川の玉
あまの川の玉
あまの川の玉

あまの川の玉
あまの川の玉
あまの川の玉
あまの川の玉
あまの川の玉
あまの川の玉
あまの川の玉
あまの川の玉
あまの川の玉
あまの川の玉

西馬 為吟 依々 山外 臨々 依々 山外

新橋

新橋の舟屋のあつたのちの橋のつり

嘉河
三溪

新橋

新橋の舟屋のあつたのちの橋のつり

新橋
三溪

新橋

新橋の舟屋のあつたのちの橋のつり

新橋
三溪

新橋

新橋の舟屋のあつたのちの橋のつり

新橋
三溪

新橋

新橋の舟屋のあつたのちの橋のつり

新橋
三溪

新橋

新橋の舟屋のあつたのちの橋のつり

新橋
三溪

新橋

新橋の舟屋のあつたのちの橋のつり

新橋
三溪

新橋の舟屋のあつたのちの橋のつり

新橋
三溪

魂 たま
たぬ

暮 く
ま

生 い
ま

海 うみ あり 舟 ふね を 上 うへ に や 玉 たま 糸 いと
玉 たま 柳 やなぎ や 岸 かた 子 こ 一 ひと め づ 柳 やなぎ 糸 いと
魂 たま の 心 こころ を 守 まも り 玉 たま 糸 いと 西 にし 風 かぜ
心 こころ あり 舟 ふね や 玉 たま 糸 いと

由 我
心 我
舟 月
心 月

初 はつ り 玉 たま 糸 いと 柳 やなぎ や 暮 く 糸 いと
少 せう 柳 やなぎ 一 ひと 舟 ふね 子 こ 持 も ち 暮 く 糸 いと

舟 月
柳 月

何 なに も つ け 糸 いと 柳 やなぎ 一 ひと 舟 ふね 子 こ 持 も ち 暮 く 糸 いと
舟 ふね の 心 こころ を 守 まも り 玉 たま 糸 いと

舟 月
舟 月

舟 ふね の 心 こころ を 守 まも り 玉 たま 糸 いと

舟 月

生 い
ま

月 つき

魂 たま
たぬ

舟 ふね の 心 こころ を 守 まも り 玉 たま 糸 いと
舟 ふね の 心 こころ を 守 まも り 玉 たま 糸 いと
舟 ふね の 心 こころ を 守 まも り 玉 たま 糸 いと
舟 ふね の 心 こころ を 守 まも り 玉 たま 糸 いと

舟 月
舟 月
舟 月
舟 月

舟 ふね の 心 こころ を 守 まも り 玉 たま 糸 いと
舟 ふね の 心 こころ を 守 まも り 玉 たま 糸 いと
舟 ふね の 心 こころ を 守 まも り 玉 たま 糸 いと
舟 ふね の 心 こころ を 守 まも り 玉 たま 糸 いと

舟 月
舟 月
舟 月
舟 月

西さい風ふう

西風の吹くや
秋の空の青さ
夕陽の紅さ
月夜の静けさ

西風
秋空
夕陽
月夜

秋風の吹くや
空の青さ
夕陽の紅さ
月夜の静けさ

秋風
空青
夕陽紅
月夜静

茶ちや火か

茶火の燃ゆるや
秋の空の青さ
夕陽の紅さ
月夜の静けさ

茶火
秋空
夕陽紅
月夜静

茶ちや火か

茶火の燃ゆるや
秋の空の青さ
夕陽の紅さ
月夜の静けさ

茶火
秋空
夕陽紅
月夜静

お 撲

秋 風

人の中をわたくし通るの風や
形跡なき足音の風や
あつたおぼえの風や
秋の風をいふは
花入の生花の風や
おぼやかしき人の風や

はらわゆる風の風
ほのろきをいふ風の風
秋風の地を言ふ風の風
秋風の風をいふ風の風
秋風の風をいふ風の風
秋風の風をいふ風の風

山 山
山 山
山 山
山 山
山 山
山 山
山 山
山 山
山 山
山 山

入 風

川を渡る風の風
おぼやかしき人の風の風
秋風の風をいふ風の風
秋風の風をいふ風の風
秋風の風をいふ風の風
秋風の風をいふ風の風

川を渡る風の風
おぼやかしき人の風の風
秋風の風をいふ風の風
秋風の風をいふ風の風
秋風の風をいふ風の風
秋風の風をいふ風の風

山 山
山 山
山 山
山 山
山 山
山 山
山 山
山 山
山 山
山 山

桂

桂の香をば 桂子の香もあや
たかい 桂の香もあや 桂子の香もあや

桂の香もあや

卯

卯の香をば 卯子の香もあや
卯の香もあや 卯子の香もあや

卯の香もあや

露

露の香をば 露子の香もあや
露の香もあや 露子の香もあや

露の香もあや

芳

芳の香をば 芳子の香もあや
芳の香もあや 芳子の香もあや

芳の香もあや

二十

二十の香をば 二十子の香もあや
二十の香もあや 二十子の香もあや

二十の香もあや

八部

八部布出多ううて無不病のけ
八部布出多ううて無不病のけ

惟子
多吹

物生

山崎月の子吹えん物生
中の子吹えん物生

青月
多吹

好生

お好もくくくく好生
好もくくくく好生

好山
多吹

好もくくくく好生
好もくくくく好生

好山
多吹

山子

山子の山子
山子の山子

山子
多吹

鳴子

鳴子の鳴子
鳴子の鳴子

鳴子
多吹

引板

引板きりし山懐の田とまふ
岸ぬまの石をあると山引板
人神とある山引板の音
安産と云く家や引板の音

大野
西三
岸田

深

深井の中を折りし音
深く大洞へ出る音

幽雅
如深

深
新

深新や之の四つさけし初音
深新一音や屋の木の音
深の音や若くハ新も深の音

深山
如山
雪音

新

新なる音のよき音
新なる音はゆる音

梅音
如音

初

初音の音はゆる音
初音の音はゆる音

初音
如音

新

新なる音のよき音
新なる音はゆる音

新音
如音

新

新なる音のよき音
新なる音はゆる音

新音
如音

く

扇の徳もあまき方のひのふか
まのしほのほのほのほのほのほ

西の
種好

少
少

よのやも思ふあつるふ川や
ほのまのりや押ひあがる橋の麓

少
品

升
市

まげらしてもくはるや市の升
くまもくもくもくもくもくもく

少
名

新
は

新ははハははははははははは
新ははははははははははははは

新
菜

占

林の山もさあもさあもさあもさあ
新ははははははははははははは

占
名

新

新ははははははははははははは
新ははははははははははははは

新
名

新ははははははははははははは

新
名

秋

き

つるらみ子 若もみり 秋を
新 燈子 夕を 用あき 秋を
海 ありの ありの ありの 秋を
ふりあし 夕を 八 佳ぬ 秋を
若もみり 秋を の ありの ありの
秋を 夕を や 夕の 夕を 夕を
咲 秋の 備も 夕を 秋を

菊枝
尾村
三子
一子
松年
夕

新 酒

秋 夕を 夕を 夕を
秋 夕を 夕を 夕を
秋 夕を 夕を 夕を
秋 夕を 夕を 夕を
秋 夕を 夕を 夕を
秋 夕を 夕を 夕を
秋 夕を 夕を 夕を
秋 夕を 夕を 夕を

新及
新及
新及
新及
新及
新及
新及
新及

新

秋

夕を 夕を 夕を 夕を
夕を 夕を 夕を 夕を
夕を 夕を 夕を 夕を
夕を 夕を 夕を 夕を
夕を 夕を 夕を 夕を
夕を 夕を 夕を 夕を
夕を 夕を 夕を 夕を
夕を 夕を 夕を 夕を

夕是
夕是
夕是
夕是
夕是
夕是
夕是
夕是

種子出たやうに我々の心
とてんてんまの縁の物に
いへばあはれうさうさ
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

照子
善慶
好新
好月
好吟

木しら
檜ナ

さくらさくら木檜新
さくらさくら木檜新
さくらさくら木檜新
さくらさくら木檜新

大船
折臺
好吟

新
屋字

新屋字のやうに
新屋字のやうに
新屋字のやうに
新屋字のやうに

百古
三侯

ふち
ま

おのののののののののの
おのののののののののの
おのののののののののの
おのののののののののの

祿久
左衆

ま
ん

まんまんけけけけけけけけ
まんまんけけけけけけけけ
まんまんけけけけけけけけ
まんまんけけけけけけけけ

大船
三侯

新
魚

新魚子けけけけけけけけ
新魚子けけけけけけけけ
新魚子けけけけけけけけ
新魚子けけけけけけけけ

新魚
文仙
仁巳

朝もやわやわのうららかなる
はらばらや風のそよよのそよよ
ふらふら朝もやわやわのそよよ
朝もやわやわのそよよのそよよ
朝もやわやわのそよよのそよよ
朝もやわやわのそよよのそよよ
朝もやわやわのそよよのそよよ
朝もやわやわのそよよのそよよ
朝もやわやわのそよよのそよよ
朝もやわやわのそよよのそよよ

空
甚
松
松
松
大
奇
奇
奇
奇
奇
奇
奇

芙蓉

秋

朝もやわやわのうららかなる
はらばらや風のそよよのそよよ
ふらふら朝もやわやわのそよよ
朝もやわやわのそよよのそよよ
朝もやわやわのそよよのそよよ
朝もやわやわのそよよのそよよ
朝もやわやわのそよよのそよよ
朝もやわやわのそよよのそよよ
朝もやわやわのそよよのそよよ
朝もやわやわのそよよのそよよ

空
甚
松
松
松
大
奇
奇
奇
奇
奇
奇
奇

花

は

花

うらまはしむ秋の信はやまの松の葉
秋の山はけしきよき秋の葉
秋の山はけしきよき秋の葉
秋の山はけしきよき秋の葉

松の葉は秋の山に
秋の山は松の葉に
秋の山は松の葉に

田のうらまはしむ秋の信はやまの松の葉
秋の山はけしきよき秋の葉
秋の山はけしきよき秋の葉

風

文

山

の

名

松

松

足

乃

山

洗

侯

夜

名

名

夜は静か
夜は静か
夜は静か
夜は静か

名は静か
名は静か
名は静か
名は静か

名は静か
名は静か
名は静か
名は静か

夜

名

名

名

名

名

名

名

名

草子

草子の葉や 吹く風子 草子の葉

清風
三侯

草

草の葉や 吹く風子 草の葉

草子
福翁

草
草

草の葉や 吹く風子 草の葉
草の葉や 吹く風子 草の葉
草の葉や 吹く風子 草の葉

吉星
大鵬
尾山
尾村
祖心

お姫

お姫の葉や 吹く風子 草の葉

一の橋
草水

松
松

松の葉や 吹く風子 草の葉
松の葉や 吹く風子 草の葉

西言
由松
多吟

草

草の葉や 吹く風子 草の葉
草の葉や 吹く風子 草の葉
草の葉や 吹く風子 草の葉

由松
松葉
松好
草草
多吟

志
しん

おろのあまのりしきしきあまのり
まよひしきおのりしきしきあまのり

青月
之星

那
な

あまのりしきあまのりしきあまのり
あまのりしきあまのりしきあまのり

程好
名吹

あ
あ

あまのりしきあまのりしきあまのり
あまのりしきあまのりしきあまのり

万入
枝玉

能
の

あまのりしきあまのりしきあまのり
あまのりしきあまのりしきあまのり

大形
才乐
名吹

編
いね

あまのりしきあまのりしきあまのり
あまのりしきあまのりしきあまのり

御風
西行
為山
萬岬
茶出

編
いね

あまのりしきあまのりしきあまのり
あまのりしきあまのりしきあまのり

御風
由美

芳
あ

あまのりしきあまのりしきあまのり
あまのりしきあまのりしきあまのり

名吹
名吹

茶

秋木三 茶の味は人の心を知る

茶の味

茶

茶の味は人の心を知る... 茶の味は人の心を知る... 茶の味は人の心を知る...

茶の味... 茶の味... 茶の味...

茶

茶の味は人の心を知る... 茶の味は人の心を知る... 茶の味は人の心を知る...

茶の味... 茶の味... 茶の味...

露

つら老の月夜あや露さう
さうさう風さあけ向うさうさう

るん
あま

苔

苔あやねおい歳代のささひの
苔さうさう世さあけおさうさう

ね波
あさ

梅

ささうさうおいさうさう梅さ
ささうさう梅さうさう梅さ

さ山
あさ

草

ささうさうさうさうさう草の
ささうさうさうさうさう草

さ川
あさ

草

ささうさうさうさうさう草の
ささうさうさうさうさう草

さ川
あさ

外

ささうさうさうさうさう外
ささうさうさうさうさう外

さ川
あさ

木

ささうさうさうさうさう木
ささうさうさうさうさう木

さ川
あさ

木

ささうさうさうさうさう木
ささうさうさうさうさう木

さ川
あさ

秋亦五

栗

後栗の枝も性あり樹の
高き葉もさきさきあり山の

種好
出風

栂トク

月のさき香や栂の枝の
影の日の影もさきさきあり

栂好
名山

杉スギ

高き杉の枝もさきさきあり
行きさきさきさきさきあり
月さきさきさきさきあり
定高きさきさきさきあり
高きさきさきさきさきあり

大船
杉水
由良
高好
好杉

草クサ

草クサ

ゆきさきさきさきさきあり
高き草の一本もさきさきあり
おのれもさきさきさきあり
高き草の一本もさきさきあり
おのれもさきさきさきあり
高き草の一本もさきさきあり
おのれもさきさきさきあり
高き草の一本もさきさきあり
おのれもさきさきさきあり

西三
省老女
高好
高好
高好
高好
高好
高好
高好
高好

秋改

秋の改めし秋の七時より一ひひ
秋の改めし秋の七時より一ひひ

改改
之改

秋備

秋の備へし秋の七時より一ひひ
秋の備へし秋の七時より一ひひ

一子
重海

秋出

秋の出し秋の七時より一ひひ
秋の出し秋の七時より一ひひ

南枝
壽月

秋心

秋の心し秋の七時より一ひひ
秋の心し秋の七時より一ひひ

為妙
為心

秋神

秋の神し秋の七時より一ひひ
秋の神し秋の七時より一ひひ

の結
の結

秋心

秋の心し秋の七時より一ひひ
秋の心し秋の七時より一ひひ

壽月
壽海

秋心

秋の心し秋の七時より一ひひ
秋の心し秋の七時より一ひひ

壽月
壽海

秋心

秋の心し秋の七時より一ひひ
秋の心し秋の七時より一ひひ

壽月
壽海

秋の心し秋の七時より一ひひ
秋の心し秋の七時より一ひひ

壽月
壽海

中

く

く

橋

風まじけきすくさくはまの寺
新橋のしほを吹くはまの寺
のりといふもほほよきわりの寺
梨葉の吹くはまの寺
まじけきすくさくはまの寺
まじけきすくさくはまの寺

素山
尾山
大勝
松尾
高吹

舞臺ののほろほろと
舞臺ののほろほろと
舞臺ののほろほろと

舞臺
舞臺
舞臺

橋のたもとに花をさかすは
橋のたもとに花をさかすは
橋のたもとに花をさかすは

橋
橋
橋

久

調

調

冬も花おとす月ひかり
冬も花おとす月ひかり
冬も花おとす月ひかり

冬
冬
冬

調のたもとに花をさかすは
調のたもとに花をさかすは
調のたもとに花をさかすは

調
調
調

調のたもとに花をさかすは
調のたもとに花をさかすは
調のたもとに花をさかすは

調
調
調

調のたもとに花をさかすは
調のたもとに花をさかすは
調のたもとに花をさかすは

調
調
調

凡その一すゝまやうなる
川明の物うらやうなる

山
山

学海より舟子問以て吟
新

山
山

新ぬす舟の燈やあはれ
新

山
山

舟よあはれを運ぶはれ
新

山
山

舟よあはれを運ぶはれ
新

山
山

舟よあはれを運ぶはれ
新

山
山

物
物

舟の回舟のまはり舟
牛馬のまはり舟のまはり舟
舟のまはり舟のまはり舟
舟のまはり舟のまはり舟
舟のまはり舟のまはり舟
舟のまはり舟のまはり舟
舟のまはり舟のまはり舟
舟のまはり舟のまはり舟

舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟

舟のまはり舟のまはり舟
舟のまはり舟のまはり舟
舟のまはり舟のまはり舟
舟のまはり舟のまはり舟
舟のまはり舟のまはり舟
舟のまはり舟のまはり舟
舟のまはり舟のまはり舟
舟のまはり舟のまはり舟

舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟

舟のまはり舟のまはり舟
舟のまはり舟のまはり舟
舟のまはり舟のまはり舟
舟のまはり舟のまはり舟
舟のまはり舟のまはり舟
舟のまはり舟のまはり舟
舟のまはり舟のまはり舟
舟のまはり舟のまはり舟

舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟

秋

夕けきしふ 空をふきく 月麻
川 破多 動 秋 空 一 月 麻
赤 新 毛 毛 赤 毛 毛 月 麻
赤 毛 毛 毛 毛 毛 月 麻
明 毛 毛 毛 毛 毛 月 麻
明 毛 毛 毛 毛 毛 月 麻

夕 秋 毛 毛 毛 毛 毛 月 麻
夕 秋 毛 毛 毛 毛 毛 月 麻
夕 秋 毛 毛 毛 毛 毛 月 麻
夕 秋 毛 毛 毛 毛 毛 月 麻

海 風
芒 毛
二 友
槐 味
赤 丸

西 弓
大 船
夕 吹

近 昔 五 百 歌 集 白 糸

冬 之 歌 笠 庵 号 吟 揖

初

初 雪 毛 毛 毛 毛 毛 月 麻
初 雪 毛 毛 毛 毛 毛 月 麻
初 雪 毛 毛 毛 毛 毛 月 麻
初 雪 毛 毛 毛 毛 毛 月 麻
初 雪 毛 毛 毛 毛 毛 月 麻
初 雪 毛 毛 毛 毛 毛 月 麻
初 雪 毛 毛 毛 毛 毛 月 麻
初 雪 毛 毛 毛 毛 毛 月 麻

西 馬
南 枝
枝 玉
伴 酒
赤 毛
夕 吹

雪

雪のふりてはうらやまや雪の船
 雪のふりてはうらやまや雪の船
 雪のふりてはうらやまや雪の船
 雪のふりてはうらやまや雪の船
 雪のふりてはうらやまや雪の船
 雪のふりてはうらやまや雪の船
 雪のふりてはうらやまや雪の船
 雪のふりてはうらやまや雪の船
 雪のふりてはうらやまや雪の船
 雪のふりてはうらやまや雪の船

乃古 南枝 落葉 冬心 大鵬 琴瑟 名風 呂宋 柳毒 虫阜 杉盤 翠星

雪のふりてはうらやまや雪の船
 雪のふりてはうらやまや雪の船
 雪のふりてはうらやまや雪の船
 雪のふりてはうらやまや雪の船
 雪のふりてはうらやまや雪の船
 雪のふりてはうらやまや雪の船
 雪のふりてはうらやまや雪の船
 雪のふりてはうらやまや雪の船
 雪のふりてはうらやまや雪の船
 雪のふりてはうらやまや雪の船

乃古 南枝 落葉 冬心 大鵬 琴瑟 名風 呂宋 柳毒 虫阜 杉盤 翠星

懐くの懸つるひや雪のしほ
はなれをさくりくちかきや雪の宿
おの雪のうさげをさかすりくち
降んまんとまの後のや雪の橋
風をさすくちかきや雪の宿
名をさすくちかきや雪の宿
汐のたまるまのうさげの雪
まのうさげの雪の宿
雪の宿のうさげの雪
まのうさげの雪の宿
雪の宿のうさげの雪

西馬
清節
ふゆ
のうさ
梅々
雪雪
素山
雪負
後舟
南枝
名

う

うさげの雪の宿
おの雪のうさげの雪
まのうさげの雪の宿
雪の宿のうさげの雪

名
山

し

しほの雪の宿
おの雪のうさげの雪
まのうさげの雪の宿
雪の宿のうさげの雪

名
山

お

おの雪のうさげの雪
まのうさげの雪の宿
雪の宿のうさげの雪

名
山

お

おの雪のうさげの雪
まのうさげの雪の宿
雪の宿のうさげの雪

名
山

おの雪のうさげの雪
まのうさげの雪の宿
雪の宿のうさげの雪

名
山

時

雨

松の葉の緑は
 秋の風を
 しのぎ
 冬は
 雪の
 白さ
 を
 しのぎ
 春は
 花の
 紅さ
 を
 しのぎ
 夏は
 緑の
 濃さ
 を
 しのぎ
 秋は
 葉の
 黄さ
 を
 しのぎ
 冬は
 雪の
 白さ
 を
 しのぎ

葉出
 松成
 葉太
 松葉
 葉自
 尾村
 大鵬
 松葉
 月後
 木松
 新抄

は

新抄の
 松の
 葉の
 緑は
 秋の
 風を
 しのぎ
 冬は
 雪の
 白さ
 を
 しのぎ
 春は
 花の
 紅さ
 を
 しのぎ
 夏は
 緑の
 濃さ
 を
 しのぎ
 秋は
 葉の
 黄さ
 を
 しのぎ
 冬は
 雪の
 白さ
 を
 しのぎ

葉出
 松成
 葉太
 松葉
 葉自
 尾村
 大鵬
 松葉
 月後
 木松
 新抄

そののさのもそのもそのもそのも
白くも 晴 陽うらさしほくぬぬ
みよすを 枝子 庭うほく水か

界のり月を 見 魚の 枝の出枝
君の男の 木 水枝の ぬるや
枝の 庭 ちんてさるつらぬ
いさもあささのほくを 枝を 枝を

畑屋や ちのすのすの ぬぬ
ゆう 枝を ぬぬ ぬぬの ぬぬ
松風も ちのすのすの ぬぬ

本 起
文 仙
多 以
為 山
青 月
海 成
高 以
大 野
越 介
雅 物

氷

樹落や ちのすのすの ぬぬ
まの ぬぬ ぬぬの ぬぬ
ゆい ぬぬ ぬぬの ぬぬ
初 ぬぬ ぬぬの ぬぬ
ぬぬ ぬぬ ぬぬの ぬぬ
松風 の ぬぬ ぬぬの ぬぬ
ぬぬ ぬぬ ぬぬの ぬぬ
ぬぬ の ぬぬ ぬぬの ぬぬ
ぬぬ ぬぬ ぬぬの ぬぬ
ぬぬ の ぬぬ ぬぬの ぬぬ

高 名
其 僻
南 枝
難 好
二 葉
ぬ 阜
高 以
南 枝
枝 五
庭 泉
紅 色

水

凍

冬

雪

神とては乃ち梅の氷の
雪の初月より一と云う
川や花はなまの氷

春好
春川

凍とては乃ち梅の氷の
雪の本とては梅の初月より一と云う

春川
春好

雪の初月より一と云う
川や花はなまの氷

春川
春好

雪の初月より一と云う
川や花はなまの氷

春川
春好

十月

小
集

十月の初月より一と云う
川や花はなまの氷

春川
春好

雪の初月より一と云う
川や花はなまの氷

春川
春好

冬月

冬月もあけぬ松葉の
雪月やあけぬ川月
あけぬやあけぬのあけぬ

梅香
南枝
雪月夜

冬

冬あけぬ松葉の
あけぬ松葉のあけぬ
あけぬ松葉のあけぬ

隆華
冬
冬

冬

冬あけぬ松葉の
あけぬ松葉のあけぬ
あけぬ松葉のあけぬ

冬
冬
冬

冬送

冬あけぬ松葉の
あけぬ松葉のあけぬ
あけぬ松葉のあけぬ

冬
冬
冬

冬

冬あけぬ松葉の
あけぬ松葉のあけぬ
あけぬ松葉のあけぬ

冬
冬
冬

冬

冬あけぬ松葉の
あけぬ松葉のあけぬ
あけぬ松葉のあけぬ

冬
冬
冬

角力とらふの神カミはたし
も今も是も世もぬすおる

空
唯
多
明

好
志

好まむとわづらひ
まはるるや雲の中もつ五月

由
祖
心
花

清
海

枝あり寸柏サカキの枝や清海風
名もいふいふ茶もつるは
名のはもあまもつるや

大
鵬
没
平
号
以

四
成

ろくろのつり
恒ありつり

之
淡
花
翁

清
海

やろくろのつり
利國子キコクコ海ウミ寸センチ中ナカ花ハナ清スミ
もろくろのつり

為
山
交
水
号
以

厚
皮

けりとお目メ海ウミの厚コウ皮ヒ
あまもつる

号
以
青
川

生
機

生機セイキや人ヒト息イキもさサわらふ
生機セイキや人ヒト息イキもさサわらふ
生機セイキや人ヒト息イキもさサわらふ

為
山
之
深
号
以

ぬいこ

東の山の中へ入りてはさふいこぬ
ふいこぬを先とて身とて扱ふ

ふいこ
青川

針糸

山を越して針糸を引くは心細く
扱ふ針糸やより針糸を扱ふや

南枝
青川

里針糸

里針糸のふんを引くは里針糸
扱ふ針糸はふんを引くは里針糸

山
治島

しん

しんを引くは心細く
扱ふしんは心細く扱ふしん

枝
治島

時

時を引くは心細く
扱ふ時は心細く扱ふ時

時
治島

糸

糸を引くは心細く
扱ふ糸は心細く扱ふ糸

糸
青川

糸

糸を引くは心細く
扱ふ糸は心細く扱ふ糸

糸
青川

糸

糸を引くは心細く
扱ふ糸は心細く扱ふ糸

糸
青川

松紀
の志

雪のりも冬兼くちひぬひぬを
松らのり松をさるー 松紀の志

南枝
片川

山
素
茶

山素茶のちりく 有布 残松
山素茶のちりく 有布 残松
山素茶のちりく 有布 残松
山素茶のちりく 有布 残松
山素茶のちりく 有布 残松
山素茶のちりく 有布 残松
山素茶のちりく 有布 残松
山素茶のちりく 有布 残松
山素茶のちりく 有布 残松
山素茶のちりく 有布 残松

永年
草
城
名
山
南枝
片川

ハ
ソ
コ

ハソコ
ハソコ
ハソコ
ハソコ
ハソコ
ハソコ
ハソコ
ハソコ
ハソコ
ハソコ
ハソコ

流
年

冬
松

冬松
冬松
冬松
冬松
冬松
冬松
冬松
冬松
冬松
冬松
冬松

冬
松
冬
松
冬
松
冬
松
冬
松
冬
松

冬
松

冬松
冬松
冬松
冬松
冬松
冬松
冬松
冬松
冬松
冬松
冬松

冬
松
冬
松
冬
松
冬
松
冬
松
冬
松

冬
松

冬松
冬松
冬松
冬松
冬松
冬松
冬松
冬松
冬松
冬松
冬松

冬
松
冬
松
冬
松
冬
松
冬
松
冬
松

冬枯

冬枯や何をあそつと嘆き
冬枯もきこしは中すきし川

紫水
冬枯

枯

うらまや不束のなる秋の
枯河よりいひて部 きのん
新しき山に河もうらや波の
下はりの新しき寺の枯も

西言
言和
紫年
雪負

冬枯

冬枯のやあそつと嘆き
うらまや不束のなる秋の
枯河よりいひて部 きのん
新しき山に河もうらや波の
下はりの新しき寺の枯も

雪負
法年
任意

冬枯

冬枯

冬枯のやあそつと嘆き
うらまや不束のなる秋の
枯河よりいひて部 きのん
新しき山に河もうらや波の
下はりの新しき寺の枯も

大勝
冬枯
紫水
真隣
暮風
尾村
思完
程好
冬枯
永年
交配

大根

袴巻のきりぎりす 園や大根引
大根引や老子 似意なき 吟掛
是よりきりぎりす 大根引

薑葱
種如
冬吟

二葉菜

山九尾の海りも 何れも二葉菜
吟掛の風子とありて 二葉菜の

大鵬
冬吟

蕪

ひりりや時白り 畠の存り一之
蕪の魚や 席船あきる 下野

南枝
松子

麦藁

麦藁や 坊子あめくも 巾の海り
麦藁の 控下り 半つ 出大根

南枝
松年

み

麦中まきや 御草も 思ふと 思ふ
麦藁や 山と くら の 物々
死ささるる 月 影さるる 能勢
こぞささるる ぬきや とも 樹 基
屋の 赤い けり けり けり けり
赤丸つら 赤丸 ぬきや けり 能勢
梅の 赤丸 ぬきや けり けり 能勢
是れ ぬきや ぬきや ぬきや ぬきや
戸の ぬきや ぬきや ぬきや ぬきや
梅月く ぬきや ぬきや ぬきや

麦中
冬吟
南枝
松子
松年

十鳥

鳥の十種を記す。一、鶯、二、雀、三、燕、四、鷹、五、鶴、六、鳩、七、鴉、八、鶻、九、鷲、十、鷹。其の性情、鳴聲、習性、を詳述す。

鶯、雀、燕、鷹、鶴、鳩、鴉、鶻、鷲、鷹

鳥

鳥の十種を記す。一、鶯、二、雀、三、燕、四、鷹、五、鶴、六、鳩、七、鴉、八、鶻、九、鷲、十、鷹。其の性情、鳴聲、習性、を詳述す。

鶯、雀、燕、鷹、鶴、鳩、鴉、鶻、鷲、鷹

霰せき

霰せきや 雪ゆき枯かる也なり きのの 子こ
霰せきや 信しんほくく 斗たう 船ふねの 記し

南枝
冬吟

細こ代しろ

つまよきつらうと 八はち折おれ 河かの 雪ゆき
結むす凍こま 月つきの 義ぎ 冬ふゆ 細こ代しろ 雪ゆき
さうさう 岸かたも ぎぬく 井いの 雪ゆき 河かの 雪ゆき
冬ふゆの 雪ゆき 冬ふゆの 雪ゆき 河かの 細こ代しろ 雪ゆき
河かの 雪ゆき 冬ふゆの 雪ゆき 河かの 雪ゆき 冬ふゆの 雪ゆき

冬吟
松崎
由登
冬吟
冬吟

中ちゆう海かい 霰せき

何なにのの 雪ゆき 冬ふゆの 雪ゆき 河かの 雪ゆき
冬ふゆの 雪ゆき 河かの 雪ゆき 冬ふゆの 雪ゆき
何なにのの 雪ゆき 冬ふゆの 雪ゆき 河かの 雪ゆき

由登
松山
枝玉

粉こな

夕ゆふの 雪ゆき 粉こな 冬ふゆの 雪ゆき
粉こな 冬ふゆの 雪ゆき 粉こな 冬ふゆの 雪ゆき

冬吟
粉子

何なにの 緑ろく

緑ろく 何なにの 緑ろく 冬ふゆの 雪ゆき
何なにの 緑ろく 冬ふゆの 雪ゆき 何なにの 緑ろく
何なにの 緑ろく 冬ふゆの 雪ゆき 何なにの 緑ろく

冬吟
素玄
南枝
冬吟

新籜

らんやをさうしておき後のつや
らんやをさうしておき後のつや

雪のあ
の候

柳

あきまらけの柳をさうして
あきまらけの柳をさうして

春川
臨美

新緑

あきまらけの柳をさうして
あきまらけの柳をさうして

由誓
春川

甘茶

あきまらけの柳をさうして
あきまらけの柳をさうして

春川
臨美

新

あきまらけの柳をさうして
あきまらけの柳をさうして

雪のあ
の候

新

あきまらけの柳をさうして
あきまらけの柳をさうして

春川
臨美

我子

向也... 我子

松泉

巨直

何も... 巨直

由華

炬火

炬火

文水

空楠

空楠

清風

空林

空林

江月

發

發の初を去るは遠くありぬ
發の初を去るは遠くありぬ

發の初を去るは遠くありぬ

務

務の初を去るは遠くありぬ
務の初を去るは遠くありぬ

務の初を去るは遠くありぬ

徳

徳の初を去るは遠くありぬ
徳の初を去るは遠くありぬ

徳の初を去るは遠くありぬ

橋

橋の初を去るは遠くありぬ
橋の初を去るは遠くありぬ

橋の初を去るは遠くありぬ

炭

炭の初を去るは遠くありぬ
炭の初を去るは遠くありぬ

炭の初を去るは遠くありぬ

炭

湯水とるに炭斗入るに薪の炭
火炭多し所の炭船もよく
炭の多やきくしに薪子の物
炭も多し思ふに薪も多し
炭も多し人にも多し思ふに
炭も多し思ふに炭も多し

西云
炭文
由外
由外
由外

冬の月

屋裏つきの所の冬や冬
杖燈の物のおく冬
おんりの思ふに冬
川城の思ふに冬
つる思ふ所の思ふに冬

由外
由外
由外
由外
由外

冬

おんりの思ふに冬
おんりの思ふに冬
おんりの思ふに冬
おんりの思ふに冬
おんりの思ふに冬
おんりの思ふに冬
おんりの思ふに冬
おんりの思ふに冬
おんりの思ふに冬
おんりの思ふに冬

由外
由外
由外
由外
由外
由外
由外
由外
由外
由外

冬

おんりの思ふに冬
おんりの思ふに冬
おんりの思ふに冬
おんりの思ふに冬
おんりの思ふに冬
おんりの思ふに冬
おんりの思ふに冬
おんりの思ふに冬
おんりの思ふに冬
おんりの思ふに冬

由外
由外
由外
由外
由外
由外
由外
由外
由外
由外

入いり

後のちとき節のちのあらわるるやをるるのいり
後のちとき節のちのあらわるるやをるるのいり
後のちとき節のちのあらわるるやをるるのいり
後のちとき節のちのあらわるるやをるるのいり

後山
冬山
冬山

八はち

後のちとき節のちのあらわるるやをるるのいり
後のちとき節のちのあらわるるやをるるのいり
後のちとき節のちのあらわるるやをるるのいり
後のちとき節のちのあらわるるやをるるのいり

西山
冬山
冬山

解と

後のちとき節のちのあらわるるやをるるのいり
後のちとき節のちのあらわるるやをるるのいり
後のちとき節のちのあらわるるやをるるのいり
後のちとき節のちのあらわるるやをるるのいり

大船
冬山
冬山

冬の日

冬の日ひはあらわるるやをるるのいり
冬の日ひはあらわるるやをるるのいり
冬の日ひはあらわるるやをるるのいり
冬の日ひはあらわるるやをるるのいり

西山
冬山
冬山

冬の家

冬の家やはあらわるるやをるるのいり
冬の家やはあらわるるやをるるのいり
冬の家やはあらわるるやをるるのいり
冬の家やはあらわるるやをるるのいり

西山
冬山
冬山

風鳥吹

風かぜ鳥とり吹ふはあらわるるやをるるのいり
風かぜ鳥とり吹ふはあらわるるやをるるのいり
風かぜ鳥とり吹ふはあらわるるやをるるのいり
風かぜ鳥とり吹ふはあらわるるやをるるのいり

冬山
冬山
冬山

冬草

冬の草くさはあらわるるやをるるのいり
冬の草くさはあらわるるやをるるのいり
冬の草くさはあらわるるやをるるのいり
冬の草くさはあらわるるやをるるのいり

冬山
冬山
冬山

青
鏡

石
押

松
守

来る海を周る船の鬼や心
大勢や油りくも鬼の非
世の心は唯人の生れや鬼の外
年の豆体木の影を流りて
世の心は唯人の生れや鬼の外
世の心は唯人の生れや鬼の外
世の心は唯人の生れや鬼の外
世の心は唯人の生れや鬼の外

冬十七
石押
松守

木

年
志

新
年

ついでに松守の年志
おもしろい風子ひる年志
おもしろい風子ひる年志
おもしろい風子ひる年志
おもしろい風子ひる年志

おもしろい風子ひる年志
おもしろい風子ひる年志
おもしろい風子ひる年志
おもしろい風子ひる年志
おもしろい風子ひる年志

木
年志
新年

夕の屋

夕の屋中あはれ撫する人の恋
夕の屋中あはれ撫する人の恋

夕の屋
夕の屋

夕の屋

夕の屋中あはれ撫する人の恋
夕の屋中あはれ撫する人の恋

夕の屋
夕の屋

夕の屋

夕の屋中あはれ撫する人の恋
夕の屋中あはれ撫する人の恋

夕の屋
夕の屋

掛乞

掛乞子泣く泣く出た
掛乞子泣く泣く出た

掛乞
掛乞

夕の屋

夕の屋中あはれ撫する人の恋
夕の屋中あはれ撫する人の恋

夕の屋
夕の屋

夕の屋

夕の屋中あはれ撫する人の恋
夕の屋中あはれ撫する人の恋

夕の屋
夕の屋

夕の屋

夕の屋中あはれ撫する人の恋
夕の屋中あはれ撫する人の恋

夕の屋
夕の屋

手紙の類は
月並の如く
の如く

後
の如く

永五壬子之四月發行

江戸書林

青雲堂英文苑

江戸下谷御成道青雲堂英文藏版俳書目録

俳諧一葉集

前後編 全九冊

芭蕉翁の發句附合文章 巻法例則
巻法消息小委ク集

俳諧故人五百題

全二冊

掌中故人五百題

全一冊

續故人五百題 一具庵撰

全二冊

發句五百題 白雄房撰

全二冊

新五百題 田喜庵撰

全二冊

新々五百題 同撰

全二冊

近世五百題 笠庵鳥吟撰

全二冊

嘉永五百題 愛川撰

全二冊

今人五百題 東溟撰

全二冊

續今人五百題 梅本為山撰

全二冊

同 三篇 今撰

全四冊

安政五百題 非禪居士撰

全二冊

群玉集 小集庵撰 兩撰

全四冊

十萬發句集 洞海舍撰 一具卷

全四冊

發句類集 八采園撰

全二冊

名所千題集 四喜庵撰

全三冊

今人百家類題 過日庵撰

全二冊

近世十家類題 過日庵撰

全二冊

近世名家類題 全撰

全四冊

題林發句集 由誓撰

全四冊

安政附合集 半青居新南撰

全一冊

海内人名錄 惺庵西馬撰

全二冊

今七部集

全二冊

利根太郎 了知撰 木下久撰 樓撰

一、二、三 沙鷗撰 長善堂撰 修撰

いふり 蒼虬撰 藤本撰 庚午撰

粟柿 小圃撰

曉臺七部集

望星集 所志中 發條 佐田日記
とるる類 秋の川 和のまじら

全二冊

乙二七部集

秋の川 和のまじら 秋の川 和のまじら

全二冊

蒼乳發句集 過日庵撰

全二冊

風俗文選拾遺

全二冊

俳諧寂察 白樺撰

全三冊

全鱗舌録 元木綱撰

全二冊

大補四季の持扇 山金堂撰

全一冊

是書四季の各句七季 文中の持扇を大補と名づくははなはだ
必し四季の各句七季 文中の持扇を大補と名づくははなはだ

○掌中寸珍物

發句五百題 白樺撰

初三編 全二冊

芭蕉翁句集

初三編 全一冊

其角發句集

初三編 全三冊

嵐雪發句集

初三編 全三冊

乙由發句集

初三編 全一冊

兼太發句集

初三編 全三冊

發句新五百題 日暮庵撰

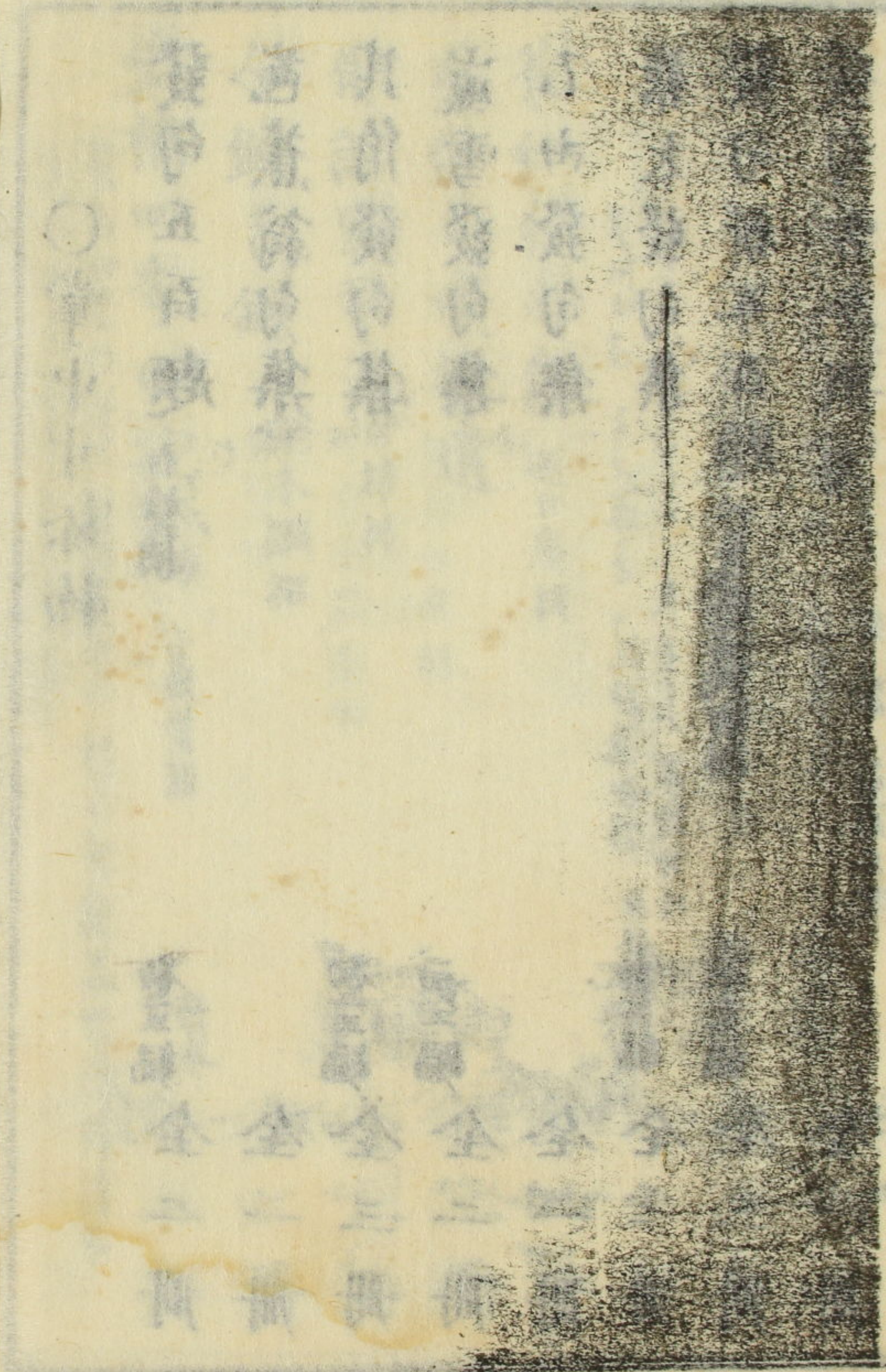
初三編 全三冊

發句古今撰 日暮庵撰

初三編 全一冊

俳諧四季草 翁始門人各家撰

初三編 全四冊



天下坊

登龍丸

食物一切

一粒入

百早八文

凡人世に生るる人て欲する事多し

此の丸は天下の奇效あり秘法にて煉成るる物なり
 の効業もつり得るは十年廿年痲痺もくは上は痲痺も
 ちりりせしむる又固飲せしむる丸にては痲痺もくは
 痲痺もくは痲痺もくは痲痺もくは痲痺もくは痲痺もくは
 二巡りも利のりし丸にては痲痺もくは痲痺もくは
 痲痺もくは痲痺もくは痲痺もくは痲痺もくは痲痺もくは
 丸の液れを補ひ丸にては痲痺もくは痲痺もくは痲痺もくは

一 咳しきりしを治すにやう小痰を治すに咳しきりしを治すに
る数万人用いしにやう小痰を治すに咳しきりしを治すに
不思議の妙業を治すに咳しきりしを治すに

十年廿年當息

一 勞瘵の症

一 肺の咳

一 如らとま

一 咽喉せりつとま

一 小痰の毒せりつとま

一 痰然りつとま

一 痰はても出た

一 痰小血交り

一 小兒百日咳

一 動転つとま

一 面竹とくしつとま

一 脾命症の産後の咳

一 面竹して吐きまじり

一 此外痰咳を治すに配る病一切

一 若くは老い少くは幼い利もの時節を治すに咳しきりしを治すに

一 抑痰咳しきりしを治すに咳しきりしを治すに

一 毛不しきりしを治すに咳しきりしを治すに

一 咳しきりしを治すに咳しきりしを治すに

一 痰せりしを治すに咳しきりしを治すに

一 痰龍丸を年々一きり痰咳を治すに咳しきりしを治すに

一 百葉地用いしを治すに咳しきりしを治すに

一 やりに治し業の年々一きり痰咳を治すに咳しきりしを治すに

